

安曇野市農業農村振興計画推進委員会（第三回）会議概要

- 1 審議会名 安曇野市農業農村振興計画推進委員会（第三回）  
 2 日 時 平成28年8月10日 午前9時30分から午前11時45分まで  
 3 会 場 安曇野市役所 本庁舎3階 共用会議室306  
 4 出席者 佐藤進委員、久保田敏彦委員、丸山昌則委員、渡辺共芳委員、池上洋助委員、  
 浅川拓郎委員、三澤勇委員、高橋正光委員、興智幸委員、鈴木達也委員、  
 等々力等委員、丸山和子委員、白澤幸男委員、塩野治幸委員、板花守夫委員  
 5 市側出席者 大向部長、大竹課長、柴野課長、矢花課長補佐、高橋係長、百瀬係長、奈良澤係長、  
 中村係長、丸山係長、山田係長、上野課長補佐、樽沼副主幹、矢島氏、赤須主査  
 6 公開・非公開の別 公開  
 7 傍聴人 0人 記者 0人  
 8 会議概要作成年月日 平成28年8月17日

協 議 事 項 等

- 1 会議の概要  
 (1) 開会（山田係長）  
 (2) あいさつ（佐藤委員長）  
 (3) 協議事項  
 ① 平成27年度実施状況の点検・評価結果（案）について  
 (4) その他  
 ① 安曇野市地域経済活性化を図る産業振興条例（仮称）の骨子（案）について  
 ② 今後の予定  
 (5) 閉会（山田係長）
- 2 審議概要  
 (1) 安曇野市農業・農村振興計画に係る平成27年度実施状況の点検評価結果（案）について  
 → 事務局より資料説明  
 (委員からの意見：概要)
- 平成27年度数値目標達成状況評定表
- ・農家民宿数について、当初の目標を大きく上回っている。評定が「C」以外はコメントを入れるようにはなっていないが、分かりやすくするためにコメントを入れるなど工夫する必要がある。
  - ・評定が「C」になっているものであっても、今年度着手しているものは評定を「A」または「B」にしてもよいのではないか。
- 農業で「稼ぐ」 ～経営する～
- 【ブランド力の強化】
- ・地域資源の更なる活用が必要。地域資源＝農産物だけではない。「ぬかくど」など、安曇野の文化や習慣も地域資源だと考えるので、ここにしかないものを選んでPRしていくことが、差別化につながる。
  - ・ブランド化について、外に向けて分かりやすいものでなくてはならない。消費者に選んでもらえるために、行き当たりばったりの計画ではなく、どんな課題があるのか、何をするのか、周囲に分かりやすいものである必要がある。ブランド化に向けて問題点が何かを突き詰めて、具体的に解決方法を探るべきである。
  - ・連携団体等に現場の進行状況と合わないような検証を依頼するのではなく、進んだ技術や農業生産に役立つ検証を望む。また、新品種についてもっとアンテナを高くしてほしい。

#### 【6次産業化等の推進】

- ・農家民宿は大きな事業となっており、今後の方針等についてもっと議論が必要である。

#### □ 田園で「守る」 ～維持する～

##### 【後継者・新規就農者の確保および育成】

- ・農家の規模の大小に関わらない対策が必要。
- ・個人農家や兼業農家等への補助をなくすことのないよう、お願いしたい。

##### 【中山間地域の向上対策と荒廃農地対策】

- ・新規就農者が農地等の情報を得るために、荒廃農地のGIS活用や台帳の整理が必要ではないか。また、小学生が職場見学等で訪れた際、目に見える方法（GISの活用）で閲覧できれば農業のことについて分かりやすく、興味がわきやすいのではないか。
- ・明科天王原の事例は荒廃農地解消の事案にとどまらず、農業農村振興計画に挙げられている3本の柱が全て詰まっている例ではないか。天王原の事例が他の事業を確立させるための先進的な事業として確立すべき。

#### □ 安曇野で「生きる」 ～暮らす～

##### 【農のある暮らし充実】

- ・市内の各地域に特徴的な農産物があるので、オーナー制度を実施してみたらどうか。また、地域で交流し体験学習を含めて交流できれば面白い。
- ・食農教育の一つとして「こんなことを話したい」という声が地域からあがった時に、個人が学校と直接交渉することは難しい。市やJAが窓口となり両者を結びつけ、円滑に進められるようなシステムが必要である。

##### 【環境資源の保全・活用】

- ・地下水のリサイクルする方法を提案する。市民が生命線である水を守ることが大事ではないか。

#### □ 全体意見

- ・会話から糸口がつかめることがある。「このようにやっている」だけで終わるのではなく、発展的な意見からアイデアが生まれることがあるのではないか。また、話題になっていること以外から新しいことが見つかることもある。
- ・中山間はもちろんのことだが、農家数の激減や農業農村の維持ができるかどうかは切羽詰まった問題である。もっと真剣に話し合う必要があるのではないか。
- ・明科地域天王原の事例とりんご、米に次いだ第3の生産分野として取り上げられている夏秋いちごについて、戦略的なあり方を示して一般化した表現で第2次の農業農村振興計画でとりあげるべき。
- ・JAにおいても、農業振興に関する計画がされており、市の計画とマッチングさせることが必要である。大きな組織団体であるJAと市でタイアップし、農政の改革等も視野にいれて具体的な戦略について示す必要がある。また、市とJAの連携をとおして、安曇野市の農業振興やブランド構築につなげてほしい。

#### (2) 安曇野市地域経済活性化を図る産業振興条例（仮称）の骨子（案）について

→事務局より説明

- ・産業というのは農業農村振興計画の中で言うと「稼ぐ」のほんの一部である。農業だけでなく農村が入っているということは、市民生活を意識したものである。産業に市民の暮らしは入ってくるのか、と考えるとあたらしい条例でははじき出されてしまうのではないかと感じる。